

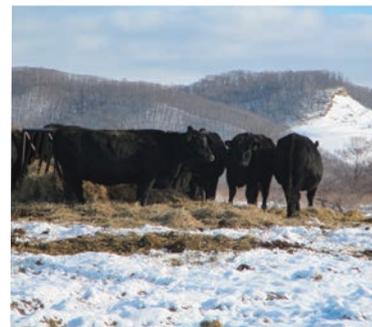
e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2026

十勝は、厳冬から脱出

やっと寒さから抜け出た気がする。日中は風が吹かないとポカポカ陽気。熱く感じるくらいで、ストーブ消しても窓から入るお陽さまで暑い。雪解けが進み、屋根の雪は、すっかり落ち、道路のアスファルトが出て運転しやすい。雪解け水の跳ね返りで、通る車は泥だらけ。このまま進めばよいのだが、昨年2月の記録的な大雪の悪夢がよみかえる。これから雪マークや強風の赤矢印が気になるところ。大地と遠く of 山脈は、まだまだ白銀だが

JAや農家の会合も連日増え、春先の作業スケジュールが立てられている。牛たちも春のいびきを感じて、ちょっと落ち着かない。食いもモリモリよくなり太ってきた。腹下についたボロやモコモコの冬毛を脱ぐのも間もなくだ。



活動のお知らせ

- 1/15 マルハニチロHOAP面談会/十勝加工場事業売却に関する件
1/16 マルハニチロへの要請文提出1/30回答通知

NEWSばか読み

- 水稲ひこばえ再生二期作の期待感広がる
1/1:イネ科作物の可能性追求
- 環境省 クマ専門官5人採用1/5:広い国土これで
- 農水省 牛乳・牛肉の環境負荷低減「みえるらべる」の表示要件厳しく
1/8:基準内用
- コンビニ大手・外食チェーン 輸入米の使用が拡大1/8:影響大きく
農水省 耕地面積2025発表424万haピーク時の3割減1/8:減る
- サカタのタネ 新BS資材発売 コーティング効果に有効
- 1/9:残留のリスク検証は
アメリカ農務省と厚生省が政府の食品指針改定し不健康食品に宣
- 戦布告1/9:肥満危機感
海外の日本食店が減少に転じる 中国激減1万5千店減少
- 1/9:輸出に影響
- 農水省 スマート農機のは場一体支援 5割補助
- 1/10:農機の値上げ追いつかず
AWFの大学。企業、農研機構でプラットフォーム設立
- 1/12:浸透性が課題
道総研畜産試験場 冬の育成牛舎消毒に次亜塩素酸水が有効実証
- 1/12:期待感あり
- 田んぼダムが拡大 宮城県倍増 記録的大雨で再評価
- 1/13:多面性評価
アメリカ 2025年温室ガスが減少から一転2.4%増加
1/15:トランプ政策効果検証
- 農水省 農作物獣害188億円 最悪の15%増 シカ、猪急拡大
1/16:年々増す
- 農水省 営農発電の規制強化 遮光率・地域計画要件
- 1/17:適正活用
農水省 加工原料補給金増 牛乳消費低迷1/19:補助増で逃げ切り
- アマゾン地域 森林農法が注目1/19:森林破壊を妨げられるか
環境省 気候変動報告 コメの影響が深刻1/21:耐暑対策必須
- コンビニ売上12兆円最高更新来客数163億人1/21:大きな消費
- 農水省 豚熱ワクチンの国産供給開始1/21:マンネリ感
環境庁 インバウンド消費飲食2兆円超え1/22:宣伝効果期待
- 財務省統計速報 食品輸入10兆円超え1/23:食料品安保は
農研機構 卵のまま雌雄判別1/23:AWF
- 関東生乳販連 26年度乳価据置 消費減退懸念1/24:
総務省 消費者物価指数3.1%上昇 食料品高騰影響1/24:
- 食料品消費税ゼロ論議1/27:還付課題
農水省 製餡業者に原材料表示是正指示
- 1/28:産地偽装 安全表示必須
- 農研機構 多収大豆の新品種急拡大1/29:おこぼれ飼料に
- ホクレン 26年度乳価据置1/29:横並び 産地の奨励ないのか
- 脱粉在庫が拡大 コロナ禍前並 消化削減対策へ
- 1/31:繰り返し 新規アイディアなし生産者に負担
-

東京直近NEWS(1/29 Shi-REPORT)

ホルス

市況相場は上場少なく上げ基調に変化なし。
絶対頭数の減少傾向は変わらず、各メーカー集荷苦戦継続。
販売状況は季節柄カタローズ系引き合い強い時期も例年に比べると鈍い印象。
全般切落し中心の引合いでロイン、意外にもバラ系が好調維持。
産地からの枝肉コスト高騰は続いており販売先へ売価転嫁交渉課題。不需要期にも関わらず価格交渉必至。
絶対頭数不足からか、生協ルートもホルスは不足感あり。
生活防衛意識と選挙戦から1月末からは苦戦予測、国産牛売り場確保課題。

経産牛

北海道内の出回り頭数の減少傾向は継続課題。
生体市場へは各市場で出回り頭数少ないことから新規参入も目立つとの情報。
相場の高止まり感もさらなる高騰の兆しも。
販売面は年度末に向け、各産地よりアイテムの放出は大小あるが有るものの、外食中心に消化鈍く、在庫の回転は鈍い状況。
挽き材も一定の落ち着きを見せており、秋口の不足感から高騰基調はやや終息感。
末端では輸入物の高値と国産牛全般高騰しており、特売打てず。
和牛の不足と高値から和経産の引合い増。

1.畜産技術847号(2025.12)

(1)最新肉質評価技術シリーズ2:肉の食味性や嗜好性を評価するための官能検査法-1(入江正和、家畜改良センター)

世界1の牛肉消費国は米国で赤身肉嗜好ですが国民1人当たりの消費ではウルグアイ人が46kg/年で1番です。日本人は最近でも6~7kg/年で、霜降り和牛肉嗜好です。牛肉のおいしさは多様性があり科学的肉質評価法を基本とする官能検査法のガイドラインを日本でも2005年に作成しました。官能検査に用いる加熱器具や肉製品の発展で生じる新たな情報に対応するガイドラインも改定され、米国American MEAT SIENCE ASSOCIATIONが2016年に新ガイドラインをWEB上で公開し、10章で構成されていますが、わが国の畜産技術者に資する項目を牛・豚肉に限定して肉の嗜好性と加熱損失に影響する技法を中心に紹介します。原本は米国民の嗜好に依拠して日本人の嗜好性とは異なるので官能試験実施前にどのような仮説を立て、答える疑問、結果の利用法・検出差の大きさ・試料内バラツキ等の考慮が必要です。加熱器にはインピンジメン斗オープンやクラムシェル調理器などがロース斗法(焼煎)やブロイル法(炙り焼)に使われています。

2. 畜産技術848号(2022.6.1)

(1)特集 基本法改正を踏まえて10年後を見据えた畜産研究の展開方向

昨年4月に「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されました。「農林水産研究イノベーション戦略」は毎年度策定され、昨年はイノベ戦略2025と略し、令和3年の「緑の食料システム」では環境と調和の取れた食料システムを確立・推進しました。イノベ2025ではスマート畜産技術の導入やGHGの削減、家畜疾病の防止技術と畜産経営の効率化の展望など

があります。以下分野別に研究開発動向を示します。(野見山孝司:農林水産技術会議事務局)

(2)持続可能な家畜生産に向けて(川島知之、宮崎大名誉)

家畜生産を持続させる研究では反芻家畜を利用することで人と食料競合せず、第一胃発酵でメタン産生抑制でGHG排出削減が達成されます。日本の家畜生産由来のGHGは1%とされ、日本の飼料自給率は26%と小さく、海外技術協力による畜産技術の国際連携は不可欠です。

(3)草地・飼料(小倉振一郎、東北大院農学研)

草地・飼料を生産する農地と家畜がいれば資源循環が成り立ち、その地域は活性化されます。畜産業は草地と飼料生産により農業-農村-食料生産を繋ぐ核になれます。環境と調和の取れた生産システムには耕畜連携で耕種農家と畜産農家による循環型農業の推進が必須です人口減少下の農業生産の維持にはスマート技術の活用が重要です。

(4)日本の動物衛生研究のこれから(津田知幸、明治アニマルヘルス株)

日本の動物衛生研究は海外からの侵入防止、国内感染症対策、新規の予防・治療技術の研究目標があります。畜産業の持続的発展には家畜疾病の克服が不可欠です。

(5)畜産経営の中長期的展望を見据えた経営研究のあり方(福田晋、中村学園大)

畜産経営は他の耕種経営より奥行きが深く、家畜の生産物を得るために飼料を自給する農地や得られる畜産物の加工で付加価値を付ける工程が必要です。この奥行きが深さが多くの資本と労力や農地を要します。10年後を考えた畜産経営研究は個々の過程を専門とするのではなく環境・安全・動物福祉など社会的課題を扱う経営体に展開すべきと考えます。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2025

転載・再利用は固くお断りします

Future With Cows牛とともに歩む未来~資源循環型生産の一事例 5回シリーズ① 農研機構、現:農林水産省 堤 道生 氏

第22回資源循環型肉牛生産シンポジウム2025
2025年10月23日

Future With Cows 牛とともに歩む未来 ~資源循環型生産の一事例から~

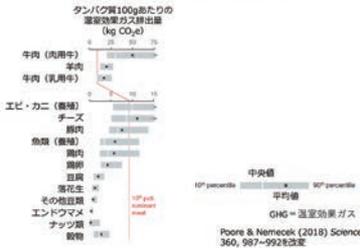
堤 道生
(農研機構、現:農林水産省)

主なGHGと肉用牛生産 における排出源

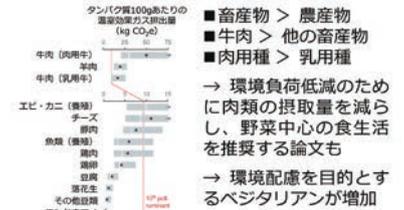
- 二酸化炭素 (CO₂) : 温暖化係数*1
→ 肥料製造、燃料燃焼
- メタン (CH₄) : 同29.8 (化石燃料由来)
: 同27.0 (非化石燃料由来)
→ 消化管活動
- 一酸化二窒素 (N₂O) : 同273
→ 排泄物とその処理、肥料からの直接排出

*IPCC第6次報告書の100年割換

食物生産に係るGHG排出量



食物生産に係るGHG排出量



他の環境負荷の指標

- 都市域大気汚染
- 室内空気質汚染
- 有害化学物質
- 騒音
- オゾン層破壊
- 光化学オキシダント
- 生態毒性
- 酸性化
- 富栄養化
- 廃棄物
- 土地利用
- 鉱物資源消費
- 化石燃料消費
- 生物資源消費

伊野・稲葉 (2010) LIME2-意思決定を支援する環境影響評価手法

わが国の肉用牛生産の特徴

- 濃厚飼料多給
- 飼料を輸入に依存
- 肥育期間は長め
- 生産効率は高い

環境負荷:国産牛肉 vs 海外産牛肉

- GHG排出量: 国際的にみて標準的なレベル
← 生産効率が高いため
- エネルギー消費量: 極めて多い
← 輸入濃厚飼料に依存しているため



GHG排出量削減の取り組み

- 消化管活動由来のメタン
 - 3-ニトロロオキシプロパノール
 - カシューナッツ殻液
 - カギケノリ (国内未承認)
 - 低メタン排出牛の育種
- 排泄物由来のN₂O
 - アミノ酸バランス改善飼料
- 生産効率向上による全体的な削減
 - 育種による飼料効率の向上
 - 肥育期間の短縮

有機肉用牛生産

- EUの飼養牛頭数(酪農含む)でも6%
- わが国では0.056% (1452/261万)

